

## 「第22回EDCセミナー」参加報告

広瀬 雅子

平成13(2001)年5月24日～25日、福岡の西南学院大学にて標記セミナーに参加する機会を得た。セミナー自体はEDC(EU資料センター)相互の親睦会的側面も大きいですが、本稿ではそこでとりあげられたEUの公式ホームページの紹介もかねてセミナーについて報告する。

### EDC : European Documentation Centre とは

EU : European Union(欧州連合)の一部局である European Commission(欧州委員会)により設置された欧州統合関係文献専門の資料センターで、全世界に500カ所以上のEDCと100カ所のDEP: Depositary Library(寄託図書館)がある。EUへの理解や研究をすすめることを目的としており、ルクセンブルグにある欧州委員会出版局から、EUの官報、条約集、年次・月例報告書、統計資料などのEU公式資料の寄贈を受けている。日本国内にはDEPである国立国会図書館の他に名古屋大学・東京大学・早稲田大学などの19大学にEDCが設けられており、関西大学EDCは国内で10番目の昭和58(1983)年に設立されたものである。

### EDCセミナーについて

EDCセミナーは駐日欧州委員会代表部の後援を受けて毎年1回在日EDCが輪番制で開催しているもので、駐日欧州委員会代表部による講演、各館の活動報告、レファレンス事例、研究報告など、国内のEDC担当者が一堂に会しての情報交換の機会となっている。全EDCでの開催が前年2000年の大阪市立大学でちょうど1巡し、今回が初めての2巡目となった。

### 第22回EDCセミナー プログラム

- (1) 講演「The EU on the global stage」駐日欧州委員会代表部広報部次長Grath氏
- (2) 講演「ヨーロッパ統合における法的諸問題」西南学院大学法学部教授松隈潤氏
- (3) 「EDCトレーニングセミナー(ブリュッセル)の

報告」同志社大学・西南学院大学

- (4) 「ヨーロッパサーバーについて」日本大学
- (5) 研究報告「日・EUフレンドシップウィークイベントの報告」慶応義塾大学
- (6) 研究報告「各種EUROSTAT CD-ROMの内容と利用法について」中央大学
- (7) 各館の活動報告およびレファレンス事例の発表

この内、(3)と(4)は、共にEUの公式ホームページについてであった。また恒例の(7)レファレンス事例もほとんどがインターネットでのデータベースの検索に関することであった。

### ヨーロッパ・サーバーとその主なリンク先

ヨーロッパサーバー(EU公式ホームページ)(図1)はEUに関する最新情報を提供し、またEU各機関のWebsiteへの入り口ともなるインターネット上のポータルサイトである。最近リニューアルされてデータ量が増加し使いやすくなったとのことで、本セミナーでその内容が紹介された。

主な内容は別掲のとおりで非常に膨大で多岐にわたったものとなっている。またOfficial Journalなどのように全文がみられる資料が含まれる一方、統計などのように最新情報や概要しか提供されない資料もある。そのため、効率的な検索をするには、求める資料がどこに入っているか、そのためにまずどこ



図1: ヨーロッパ・サーバー(英語版)  
http://europa.eu.int/index\_en.htm  
(2002.5.13)

からスタートするか、の判断が重要になってきている。今回のセミナーのレファレンス事例でもそのノウハウが多く取り上げられ、非常に勉強になった。

### 冊子体から digital resources へ

印刷された冊子体のOfficial JournalがEDCに配布されなくなったことは印象深い出来事であった(2000年3月) OJはBulletin、General Report、COM Documentsなどと共に最も基本的な資料とされてきたものである。これからもその重要性はかわらないが、各EDCは今後CD-ROM(1998年から配布開始)とインターネット上のホームページから情報を入手することとなった。( \* 1 )

ただし、法的には印刷されたOfficial Journalが正式なものともみなされるので、インターネットやCD-ROMの情報を典拠とする場合には注意が必要である。( \* 2 )

### 終わりに

EUのデータベースは大部分が無料であり、居ながらにして多くのEU資料を入手できる時代となった。EDCに来なくても主な情報は入手できるようになると、今後は情報入手のノウハウを利用者に指導したり、検索の相談に乗ったりすることがEDCの仕事の大きな部分として求められることになる。

ネットワークによる情報の発信がますます充実していく現在、こうした傾向はEU資料に限らず多くの分野で顕著になってきている。情報入手のノウハウを獲得しそれをみがいていくことが我々図書館員に強く求められているのである。

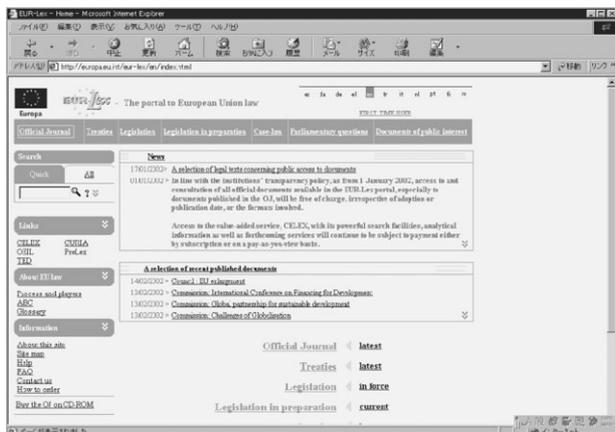


図2 : EUR-Lex (英語版)  
<http://europa.eu.int/eur-lex/en/index.html>  
 (2002.5.13)

### ヨーロッパ・サーバーの主なメニュー

#### News

記者発表、行事予定、加盟交渉に関する情報など。

#### Activities

Agriculture、Audiovisual policyのように、テーマ別のページ。

#### Institutions...

ECLAS : European Commission Libraries Catalogue  
 EUの図書館の所蔵目録。EU以外の発行所によるEUに関する資料も検索可能。

Parliament、Council、Commissionを始めとするEU各機関へのリンクとその概観。

#### The EU at a glance

EUに関する初歩的な事項、用語説明など。

#### Official documents

##### EUR-Lex( 図2 )

EUの法令や法制定に関する情報の発信を目的としたEUのWebsite。EUの官報であるOJ : Official Journal( 1998年 ~ ) などの原文を入手可能。

Bulletin( 1996年 ~ )、General Report( 1997年 ~ ) などの原文にもアクセス可能。

#### Information sources

各種情報源へ。

#### 注記

- \* 1 国立国会図書館からこれに伴い冊子体の購入を開始したとの報告があった。
- \* 2 Notice on reproduction and translation of EU legislation and case-law

#### 参考文献

ジャンカルロ・パウ 『欧州共同体 ( EC ) に関する資料・情報源へのアプローチのてびき』東京 駐日EC委員会 代表部広報部 1986

#### 参考ホームページ (本文中で紹介しなかったもの)

駐日欧州委員会代表部 <http://jpn.cec.eu.int/>

( 閲覧参考課 ひろせ まさこ )